

平成22年度学校自己評価表(1)

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の能力と個性の伸張をはかりながら、基礎学力の育成と基本的生活習慣の確立に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の 重点目標	1 基礎的な学力の保障と進路実現 2 基本的生活習慣の確立 3 地域貢献活動の推進 4 国際交流活動および国際理解教育の充実
-------------------	---	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 基礎的な学力の保障と進路実現	○保育教育の充実を図る。	○当該科目数が十分ではない	○23年度に新しい科目を入れるための検討を進める。	○保育教育充実のために教育課程を見直す。	○来年度に関しては、保育関係科目の単位数増で対応。新教育課程で、新科目実施予定。	B	○ビジョン委員会での提言をうけ、具体的な科目内容を検討する。
	○進路実現のための学力の充実を図る。	○進路実現のための十分な学力がついていない。	○生徒の進路希望の100%の実現を目指す。	○個人面接の時間を確保し、個々の生徒への対応を充実させる。	○2回の個人面接を通して生徒個々の状況を把握し指導ができた。		○個人面接を引き続き実施する。また、今年度1年次生に行った全教科説明をより発展させる。
	○教員の授業力向上を図る。	○教員の授業力向上に向け改善すべき余地がある。	○授業を大切にし、授業力を高める。	○授業公開週間を設け、互いに参観することにより授業の資質向上に努める。	○年2回の授業公開週間を設け、教科内だけでなく他教科の授業を参観することにより、互いの授業力向上に努めた。	B	○教員間の助言や、授業アンケートの結果を吟味して、より質の高い授業を目指す。
	○4年制文系大学・国公立短期大学への進学者を増やす。	○大学進学者の絶対数が少ない。また大学進学者もほとんど指定校推薦・一般推薦などの入試方法で合格している。	○筆記試験を受けての4年制文系大学また国公立短期大学への進学者を養成する。	○長期休業中の講習、平日講習等の充実を図る。	○昨年度に比べて、夏期・冬期講習は同じくらい、平日講習は講座数・参加数ともに倍増以上。		○2年次生の最後のガイダンスを精選・充実させてゆく。
	○3年間を通したキャリアガイダンスの充実を図る。	○「産社」「職場体験」「テーマ学習」が有効に積み重なっていない。	○キャリアガイダンスの現状を見直し、より良い計画を作成する。	○社会人講話・職場体験学習等を実施し、進学先や希望する職種等、具体的にイメージできるようにさせる。「テーマ学習」を有効に活用する。	○ガイダンスの内容を、業者とともに精選。	B	○筆記試験を受けての上級学校進学希望者への対応をはかる。
					○筆記試験を受けての上級学校進学者が微増。		○「産社」「職場体験」「テーマ学習」の有機的な積み重ねを、ビジョン委員会と連携しながら進め、具体的な学習活動内容を決定し、実施に向けて動く。
2. 基本的生活習慣の確立	○遅刻・欠席を減らす。	○無遅刻・無欠席の生徒がいる反面、遅刻・欠席が目立つ生徒も多い。	○遅刻者数前年比半減を目指す。	○朝読書を活用して遅刻防止に努める。	○1月末までの遅刻回数は前年比の半減とまでは行かないが、44%減を達成することができている。	A	○継続して、遅刻した生徒を別室で指導し、遅刻の多い生徒には家庭連絡をより密にとり個人面談等を通して指導する。
	○挨拶・言葉遣いなど基本的なマナーを身につける。	○服装の乱れが目につく生徒や、規範意識の希薄な生徒がいる。	○先語後礼を身につけさせる。	○朝読書を活用して遅刻防止に努める。	○マナーアップや交通安全指導を始め、指導部では朝読書の時間を活用し、遅刻指導を含めた声かけ運動を、生徒会執行部の協力を得て、毎日昇降口で行っている。		○引き続き朝の声かけ運動を継続して行う。
	○米子高校の生徒として、自覚と誇りを持ち、高校生らしい言動・正しい服装ができるようにする。	○来客や教職員に対して、自ら挨拶をする生徒が多い。	○服装規定を守らせる。	○着こなしセミナーを実施する。	○一部の生徒には化粧・スカート丈など意識の低い者もいるが、全体的に改善されてきた。	B	○学年単位の服装指導も定着してきており、今後も粘り強く指導していく。
			○学校全体として指導を統一し、粘り強く指導する。	○校内巡視をするとともに、普段から全職員で統一した指導をする。	○自分から挨拶する生徒が年々増えてきている。		○立ち番指導・挨拶指導などを今後も実施していき教職員からの声かけも継続して行う。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:まだ不十分 D:目標・方策の見直し
 [80%以上] [60%程度] [40%程度] [30%以下]